

いる。ただし、茶は隣町でありながら相生の番茶と異なる製法の「るり茶」と呼ばれる風味豊かなお茶である。

上那賀町の巨樹・巨木であるが、森林の町であるせいか、杉・檜にはこれといった巨樹・巨木が見当たらなかった。建築用材として既に伐採されているのかもしれない。代わりといっっては何だが、ここには素晴らしいしだれ桜の老木が残っている。

「白石しだれ桜」と呼ばれる幹周3.2m、樹高15m、樹齢200年の名木である。近年傷みが激しく、早急な治療が必要といわれており、町内外の人々の理解と協力を得てこの桜の保存が是非行われることを望みたい。

順路は逆になるが、白石のしだれ桜より手前で国道195号線は国道193号線と交叉している。出合橋を渡らずに真っ直ぐに進めば木沢村、左方向の橋を渡りしばらく進むと木頭村となる。

#### - 木沢村 -

出合橋から193号線を北西方向へ5分ほど進むと右手に集落が現れる。正確に言うと木沢村は195号線に接していないが、ここの自然はあまりにも素晴らしく195号線を利用した観光としては通り過ぎすわけにはいかない。

木沢村は徳島県で最も人口の少ない村で、平成12年国調では958人となっている。元々は林業の村であったが、ご多分に漏れず、人口減少と林業離れがこの村を襲い、現在はその類い希なる自然を前面に押し出した観光・交流事業を主体としたむらづくりを進めようとしている。

木沢村は先の3町からさらに標高の高い地域が広がり、人工林率はさほど高くないと思われる。したがって、木沢村には広葉樹林（原生林）が広く分布している。四国第二の高峰「剣山（1955m）」に続く山々であるためであるが、徳島県内の林業地域にあって唯一自然林が残っている地域かもしれない。

昭和63年に環境庁が「巨樹・巨木林調査」を実施したが、実に幹周3m以上の巨樹・巨木が106本も確認されている。（残念ながらその後のフォローアップ調査は実施されていない。）

これらの巨樹・巨木のほとんどが寺社の境内に存し、古くから御神木として崇められてきた結果残っているものと考えられる。

また、近年の調査で全国最大級のブナの巨樹が次々と発見されるなど、本格的な調査を実施すれば、まだ眠っている巨樹や未知なる自然に遭遇できる可能性を懐深く秘めた地である。木沢村から剣山を隔てた北方向に「巨樹の里」として近年売り出している一字村（いちうそん）が位置するが、木沢村も負けず劣らずの巨樹王国であるかもしれない。

さて、木沢村は近年、「日本一の滝王国」と称して大小100を超える滝を通じて観光PRを行っている。徐々にではあるが自然愛好家の来村が増え始め、村営の「四季美谷温泉」や「農村レストラン」もシーズン中には賑わいをみせるようになってきた。そこには、人口1000人足らずの村が、行政のみならず村民が村を挙げて立ち上がり、一致協力して“村おこし”に取り組んできた成果が垣間見える。